

**「北海道地方の社会資本の重点整備方針」に関する
市町村提案及び提案された意見への対応について**

1 「北海道地方の社会資本の重点整備方針」に関する市町村提案の概要

ア 提案募集期間

平成21年4月1日（水）～平成21年4月28日（木） （28日間）

イ 提案募集方法

- 各市町村に対し文書で依頼
- 郵送又は電子メールにて提出

ウ 提案数

- 件数（市町村ベース） 17
- 提案数 48

2 市町村提案の分類別提案数

分類	主な市町村提案	提案数
①重点目標(将来の姿、重点戦略を含む。)に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間を長期化するため、滞在型観光の促進について記載が必要 ・高次医療施設がある大都市へのアクセス強化の記載が必要 ・地域住民が安心して住み続けるための「公共交通の確保」は重要 ・「積雪寒冷地の特性を考慮した防災対策の推進」に関する目標を追加 	30
②指標に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> ・道内における高速交通ネットワークの整備状況等に関する指標を設定 ・自然災害に備えるための防災対策が不可欠であり、それらの目標達成を図るための指標が必要 	4
③事業に関する提案		8
道路整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における避難経路及び物流を確保するためには必要不可欠であることから、「高規格幹線道路日高自動車道の整備」を代表事例として記載 	2
港湾整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における国際物流拠点の形成に向けて、東アジアと北米間の中継基地として地理的優位性をもつ苫小牧港における国際港湾物流拠点の形成及び苫小牧東部地域開発の推進について記載 	1
治水事業	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の河川遡上から市民の生命を守るためには、河川敷地から上流部への避難を可能とする避難通路の整備など、「新釧路川における津波の河川遡上対策」が重要 ・十勝川流域における治水対策事業を代表事例として記載したうえで、河道の掘削や堤防の整備など治水対策の推進や、治水施設の適切な維持管理を着実に推進 	5
④ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は広域分散型社会であり、社会資本整備にあたってはB/Cを重要視するのではなく、少子高齢化を迎える中で地域住民の安全で安心な生活を確保し、都市と格差のない、将来的にも地域が成り立っていくような社会資本整備を推進していただきたい。 ・広域にわたり人口低密度地帯が広がるとともに積雪寒冷といった北海道の特殊性を十分に踏まえた対応策が図られることを期待する。 	6
合計		48

3 市町村提案の内容と対応（案）

項目	市町村提案	対応 (案)
I 北海道地方の現状と課題		
4. 北海道地方で今後取り組むべき課題		
(1) 北海道の優位性を活かしたグローバル対応型の産業構造の展開	・東アジアとの関連、成長について記載されているが、歴史的、地理的優位性からロシア極東地域との関連、成長についても記載するべきではないか。	・ここでいう「東アジア」には、ロシア極東地域も含まれます。このような「東アジア」の捉え方は、国土形成計画（全国計画）においてもなされています。人的交流・経済的相互依存の現状及び地理的近接性等にかんがみ、日本、中国、韓国、台湾、ASEAN10ヶ国及び沿海地方など隣接するロシアの極東地域を指しているものです。
(2) 恵まれた自然環境の保全、循環型社会の形成と地球温暖化対策		
(3) 広域分散型社会での活力ある北国の地域づくり		
(4) 国内外に開かれた交通ネットワークの構築とモビリティの向上		
(5) 安全・安心で快適に暮らせる北国の地域づくり		
II 北海道地方の目指すべき将来の姿		
(1) アジアに輝く北の拠点～開かれた競争力ある北海道の実現	<p>・東アジア市場での競争力確保、経済成長について記載されているが、北海道と隣接するロシア極東地域は、今後大型国家投資等によってさらに発展することが予想され、両地域の多様な交流・連携の強化・拡大が期待されることから、ロシア極東地域との関わりを加えるべきではないか。</p> <p>・北海道に求められるのは、海外ではなく国内への食糧の供給が第一であり、東アジアとの交易による表面的・一時的な経済効果は将来的に北海道ひいては日本国にとって、必ずしも有益とはいえない。現実には農産地においては休耕地が拡大し、その抜本的解決が進まず、国土の荒廃や地域経済の疲弊が進行している。現状において、根拠の無い競争力の確保を過信し、他力本願に市場原理主義的に偏向しても、北海道の将来像としてのイメージは不明であり、国際競争力どころか北海道そのものの困窮が懸念される。北海道にとって最優先されるのは、地域の農業や漁業等の食糧生産基盤の強化であり、更に安全安心で良質な農水産物の供給やその加工による付加価値化から、足元の強固な地域経済を立て直すこと。また、農業基盤の整備を例えれば、比較的大規模な営農をイメージしやすいところであるが、安全性や品質を重視する近年の消費者ニーズの多様化に対応して、中・小規模の営農の継続も可能な基盤の整備が必要である。以上のように、実際の社会資本整備の実施において大差は無くとも、目的の設定における見直し及び明確化と、農地の再開発に対する具体的記述の追加を求める。</p>	<p>・ここでいう「東アジア」には、ロシア極東地域も含まれます。このような「東アジア」の捉え方は、国土形成計画（全国計画）においてもなされています。人的交流・経済的相互依存の現状及び地理的近接性等にかんがみ、日本、中国、韓国、台湾、ASEAN10ヶ国及び沿海地方など隣接するロシアの極東地域を指しているものです。</p> <p>・「食糧生産基盤の強化」については、本項目において「基盤となる食料供給力の強化」について記述しているところがあります。また、重点整備方針の対象事業は、国土交通省関係の事業でありますことから、農地の再開発に対する具体的な記述をしていないところです。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
(2) 森と水の豊かな北の大地～持続可能で美しい北海道の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア地域への玄関口について記載されているが、函館市は古くからロシアとの交流の歴史があり、極東大学函館港やロシアセンターが開設されるなど、ロシアとの交流の拠点地域として整備が進められていることから、これらについても記載するべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでいう「東アジア」には、ロシア極東地域も含まれます。このような「東アジア」の捉え方は、国土形成計画（全国計画）においてもなされています。人的交流・経済的相互依存の現状及び地理的近接性等にかんがみ、日本、中国、韓国、台湾、ASEAN10ヶ国及び沿海地方など隣接するロシアの極東地域を指しているものです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌を中心とすると記載されているが、札幌への一極集中を緩和するためにも削除し、別の表現にした方がいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市を中心とする都市圏については、ご意見のように過度の一極集中を懸念する声がある一方で、北海道全体の牽引役としての役割を期待する声もあります。この計画では、現在道内で最も高度な都市機能が集積しているという事実にかんがみ、その機能を最大限に発揮させる観点から、このような記述ぶりとしております。
(3) 地域力のある北の広域分散型社会～多様で個性ある地域から成る北海道の実現		
Ⅲ 北海道地方における社会資本の重点事項		
重点戦略1 「グローバルな競争力ある自立 的安定経済の実現」	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道が地理的特性」→「北海道の地理的特性」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、北海道の地理的特性を、地域自らが最大限に活用することが重要との意味を込めて、「が」と表現しています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア地域の急速な成長、東アジアとともに成長していく産業群の育成を図ることとしているが、隣国として、また急速な経済成長を遂げている国としてロシアとの関わりを加えるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここでいう「東アジア」には、ロシア極東地域も含まれます。このような「東アジア」の捉え方は、国土形成計画（全国計画）においてもなされています。人的交流・経済的相互依存の現状及び地理的近接性等にかんがみ、日本、中国、韓国、台湾、ASEAN10ヶ国及び沿海地方など隣接するロシアの極東地域を指しているものです。
重点目標① 「食料供給力の強化と食にか かわる産業の高付加価値化・ 競争力強化」	<ul style="list-style-type: none"> ・主要部分として、北海道は、農産物だけでなく、水産業も重要な産業であるため、水産物の生産及び流通を守るための防災対策も推進する必要があります。特に海岸線の狭隘道路、トンネル対策や高波等の対策が必要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水産物の生産及び流通を守るための防災対策も推進」については、重点戦略5重点目標①において「治水対策、土砂災害対策、火山災害対策、海岸保全対策など根幹的な防災対策を推進するほか、信頼性の高い道路ネットワークの構築を推進」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標② 「国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興」</p>	<p>・滞在時間を長期化するため、滞在型観光の促進について記載した方がよいのではないか。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ、本重点目標に「滞在型観光の促進」に関する内容を追加記載します。</p> <p>・「内外観光客の宿泊旅行回数や滞在日数の拡大を目指し、2泊3日以上の滞在型観光を促進する観光圏を形成するため、地域の幅広い関係者が連携した観光圏の整備を促進」を追加記載する。</p>
	<p>・北海道らしい景観をより魅力的に造成するための、電柱の地中化や、景観色の推進及び統一化された情報案内、誘導案内の社会基盤整備の推進</p>	<p>・「景観色の推進及び統一化された情報案内、誘導案内の社会基盤整備」については、本重点目標において「美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくり」を、重点戦略3重点目標②において「美しいまちなみ景観の形成などにより観光資源の発掘を促進」について記述しているところでもあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
<p>重点目標③ 「東アジアと共に成長する産業群の形成」</p>	<p>・安価な労働力、地価等を背景にした地方への工場立地、企業誘致についても記載した方がよいのではないか。</p>	<p>・「安価な労働力、地価等を背景にした地方への工場立地、企業誘致」については、本重点目標において「拠点地域における産業立地及び周辺の基盤整備等を推進し、新たな産業群の形成」について記述しているところでもあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・北海道における国際物流拠点の形成に向けて、東アジアと北米間の中継基地として地理的優位性をもつ苫小牧港における国際港湾物流拠点の形成及び苫小牧東部地域開発の推進について、重点事項として盛り込まれたい。</p> <p>苫小牧港は、北海道における港湾取扱貨物量の約半数を扱い、また、外資コンテナ航路は北米、中国、韓国、台湾の8航路が就航し、その外資コンテナ貨物取扱量は232万トンを扱う北海道経済を牽引する物流拠点港として、その重要性が高まっているものと認識しております。</p> <p>「新たな北海道総合開発計画」においては、国際競争力を高める物流ネットワーク機能の強化として、苫小牧港の国際海上コンテナの機能強化の推進が盛り込まれ、また、「苫小牧東部開発新計画の進め方【第2期】」では、苫小牧港東港区における国際総合物流ターミナルゾーンの形成に向け取り組むこととしております。</p> <p>以上のことから、苫小牧港における国際港湾物流拠点の形成について、重点事項とされたく意見として提出します。</p>	<p>・「苫小牧港における国際港湾物流拠点の形成」については、重点戦略4重点目標①において「国際物流の一大拠点の形成を図るため、国際海上コンテナ貨物等の輸送に係る機能強化を推進」について記述しているところでもあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ代表事例に記載していきます。</p> <p>【主要事業】 ■国際海上コンテナターミナル整備事業【苫小牧港（東港区）：中央水路地区（苫小牧市）】</p>

項目	市町村提案	対応（案）
重点戦略2 「地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成」		
重点目標① 「自然共生社会の形成」		
重点目標② 「循環型社会の形成」		
重点目標③ 「低炭素社会の形成」	<p>・都市公園の整備や都市緑地の保全、道路・河川などにおける緑化の推進は、良好な景観の形成や自然とのふれあい空間の創出はもとより、今日的には、二酸化炭素吸収源対策として重要であることから、これまで整備してきた公園緑地等の適切な維持管理を含め、積極的にすすめていく必要があります。</p>	<p>・「緑化の推進」については、本重点目標において「住民等との連携による国民参加の森づくりなどにより、道路、河川、港湾や公園等の緑化」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
重点戦略3 「魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり」		
重点目標① 「広域的な生活圏の形成と交流・連携強化」	<p>・北海道においては、広大な土地に都市や人が分散されており、各地において福祉・医療施設や医師不足であることから病院等を選ぶ状況ではない。従って、福祉・医療等の強化のためにも主要都市間を連絡する規格の高い道路整備のみならず、道内各所から高次医療施設がある大都市へのアクセス強化の記載が必要と思われる。</p> <p>・緊急医療体制の確保として救急活動に不可欠な道路網の整備推進と現道拡幅及びバイパス整備等隘路の解消を推進するとありますが、本町においても医療の過疎化が喫緊の課題であり、札幌市の医療機関への長距離救急搬送が増加しています。一刻を争う救急搬送には揺れの少ない高速走行が可能な道路の整備が急務となっておりますので、安全で安心を守る「命の道路」としての高速道路整備を具体的な施策として加えていただきたい。</p>	<p>・「高速交通ネットワークの構築」については、重点戦略4において「広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p> <p>・「緊急医療体制に係わる高速交通ネットワークの整備」については、本重点目標において「広域分散型社会において拠点となる都市に集積された機能を維持・高度化しつつ、都市間で相互に機能を補完する交通アクセスの強化により、活力ある地域づくりを推進」及び重点戦略4において「地域医療や産業、観光、生活活動等を支えるための高規格道路など広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
重点目標② 「都市における機能の強化と魅力の向上」	<p>・重点戦略3重点目標②「都市における機能の強化と魅力の向上」において、公共交通機関等のバリアフリー化の推進が記載されているが、地域の「公共交通の重要な役割」を果たす駅のバリアフリー化は高齢化が進む過疎地域において、改善を強く要望するものであるが、民間会社であるJR北海道などでは、工事経費の捻出、効果などを踏まえ、乗降者の少ない駅の改修にはなかなか及ばない現状である。また、町村においては、厳しい財政状況から町村としても支出をすることが困難な状況である。</p> <p>市町村が所有する施設のほか「公共的な役割」を持つ鉄道駅施設について、高齢者や障害者が円滑に利用できるよう施設のバリアフリー化の改修について、推進する記載を追加すべきである。</p>	<p>・「公共的な役割を持つ鉄道駅施設のバリアフリー化」については、重点戦略3重点目標③において「交通ネットワークなど交流基盤の整備」「モビリティの確保、暮らしやすい生活環境の整備」で記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
重点目標③ 「多様で個性的な北国の地域づくり」		
重点戦略4 「内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上」		
重点目標① 「国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築」	<p>・北海道観光は雄大さとともに冬季の美しさも魅力となっているが、国際的な観光地は点在しており時間距離や冬季観光のスケジュールの確実性が課題となっている。これらの地域を結ぶ交通ネットワークの時間短縮や安全性の充実により、連携が図られ多様なオプショナルツアーの設定が可能となり、滞在日数の増加なども期待できる。</p> <p>具体的にはオホーツク連携地域と十勝連携地域、釧路根室連携地域間は交通ネットワークの充実を進めていくべきで、「観光産業の連携のため地域間の交通ネットワークの充実を図る。」などの記述の追加が必要。</p>	<p>・「観光産業の連携のため地域間の交通ネットワークの充実」については、本重点戦略において「観光、生活活動等を支えるための高規格道路など広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・「道央圏連絡道路の整備促進及び札幌大橋の全面早期完成の推進」を目標の代表事例として記載願いたい。</p> <p>道央圏連絡道路は、小樽市から新千歳空港までを結ぶ延長約80kmの国道で、道央圏の道路網の骨格を形成する主要・基幹幹線道路及び北海道縦貫自動車道、北海道横断自動車道などと連絡する道路である。道央圏の物流機能の強化、圏域活動の活性化、札幌に発着する交通の利便性を図るための中核路線として、昭和55年から整備開始されているが、重点整備方針としてより一層の早期整備を目指していただきたい。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ代表事例として記載していきます。</p> <p>【主要事業】 ■地域高規格道路整備【道央圏連絡道路美原道路（江別市～当別町）、中樹林道路（南幌町～江別市） 他】</p>
	<p>・広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備（地域高規格道路）において、より、地域に密着し地域振興と活性化につながる整備計画が必要</p>	<p>・「地域に密着し地域振興と活性化につながる整備」については、本重点戦略において「広域分散型社会である北海道において、地域医療や産業、観光、生活活動等を支えるための高規格道路など広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標① 「国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築」</p>	<p>・北海道においては、各自治体で積極的な移住促進事業を連携して展開しており、各町で体験できるアウトドアスポーツや農業体験、移住体験住宅の設置などを行っているが、滞在時の移動手段としての公共交通機関が不足している。また、同時にこのことは高齢化が進む人口低密度地域において日常の移動手段としての公共交通手段の不足でもある。 道路の上を走る公共交通機関も社会資本の一つであると考えられ、道路の整備と共に公共交通機関のネットワークの維持形成も重要な課題である。</p>	<p>・「道路の整備と共に公共交通機関のネットワークの維持形成」については、ご意見を踏まえ、追加記載します。</p> <p>・本重点戦略に「多様化する地域や交通利用者のニーズに対応した地域の実情に即した交通基盤施設の整備やその利活用」を、重点目標②に「市町村、公共交通事業者、地域住民が協働した地域活性化・再生を図る取組や新たな公共交通としてDMV（デュアル・モード・ビークル）やL RVを活用した取組を推進する。」を追加記載する。</p>
	<p>・広域分散型社会である北海道においては高規格道路など広域生活圏を支える交通ネットワークの構築は大変重要であり、北海道横断自動車道、北海道縦貫自動車道などの早期着工着手及び供用開始を推進する。</p>	<p>・「広域生活圏を支える交通ネットワークの構築」については、本重点戦略において「広域分散型社会である北海道において、地域医療や産業、観光、生活活動等を支えるための高規格道路など広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」について記述しているところがあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・広域分散型社会である北海道において、物流や移動の効率化や、地域間の連携交流の促進に資する高速交通ネットワークの形成は、地域経済の活性化や安心安全な住民生活の確保などの観点から、きわめて重要です。 「北海道横断自動車道」および「帯広・広尾自動車道」の全線開通により、道内の主要都市や各圏域を結ぶ高速交通ネットワークがさらに充実することから、「北海道横断自動車道」および「帯広・広尾自動車道」の各道路整備事業を代表事例として記載するとともに、道内における高速交通ネットワークの整備状況等に関する指標を設定するなどして、事業の着実な推進を図っていただきたい。 また、高速道路の利便性増進のため、すでに供用されている区間における追加インターチェンジの整備や、ETCの早期設置を図るとともに、地域の実情を踏まえた多様な料金割引施策などを推進していただきたい。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ、「高速交通ネットワーク」に関する指標及び代表事例を設定していきます。</p> <p>【指標】 ●規格の高い道路を使う割合（重点戦略3重点目標①） 【主要事業】 ■高規格幹線道路整備【北海道横断自動車道（夕張～占冠）（夕張市～占冠村）、北海道横断自動車道（占冠～トマム）（占冠村）、北海道横断自動車道（本別～釧路）（本別町～釧路市）、帯広・広尾自動車道中札内大樹道路（中札内村～大樹町） 他】（重点戦略1重点目標①）</p>
	<p>・地方空港は、広域的な交流拠点として重要な役割を担っており、観光振興や物流拡大など、各圏域の発展に欠かせない社会基盤です。 このことから、『社会資本の重点事項』のなかで、安全で円滑な航空運航に資する施設整備のほか、空港のバリアフリー化など利便性の向上、国内外の各地域を結ぶ航空路線の拡充、空港におけるCIQ体制の充実等による国際化対応の強化など、地方空港の機能拡充について、より具体的に位置づけていただきたい。</p>	<p>・「国際化対応の強化など、地方空港の機能拡充について、より具体的に」については、本重点戦略において「内外との物流や人流の多様化に対応するため、港湾・空港や、北海道新幹線などの交流基盤を強化」について記述しているところがあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標② 「地域交通・情報通信基盤の形成」</p>	<p>・利用者の減少により各地域の公共交通が縮減されている。特に離島は限られた社会活動のためその影響を受けやすい。しかし、物資輸送や高度な医療の受信、経済活動のためなど本土とを結ぶ交通機関への依存は生活に必要不可欠なものとなっているため、「離島交通の効率的かつ安定的な交通確保の推進」に関する目標を追加していただきたい。</p> <p>道内には5つの有人離島が存在しているが地理的立地条件により少子高齢化や雇用機会確保が困難な事等、近年、人口減少が一層進んでおり集落（コミュニティ）の消滅が懸念され社会問題の一つとなっている。</p> <p>また、外海離島は我が国の経済水域の確保や防衛等の国家的役割を大きく担っており、有人離島として維持する上でも離島の位置付けが必要である。</p> <p>離島に対する事項は多岐にわたるため「3. 北海道地方における社会資本の重点事項（案）（4）「内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上」②「地域交通・情報通信基盤の形成」」を代表事例として記載した。</p>	<p>・ご意見を踏まえ、本重点目標に「離島交通の効率的かつ安定的な交通確保の推進」に関する内容を追加記載します。</p> <p>・「離島交通については、本土への安定的なアクセスを確保するため、航路・航空路の維持及び防波堤等の整備を推進する。」を追加記載する。</p>
	<p>・現代社会における情報通信体制の整備は、広域分散型社会である北海道の地域格差是正のために必要不可欠です。</p> <p>社会資本としての公共光ファイバー網の整備促進と共に民間光ファイバー網の整備促進を合わせた施策が必要</p>	<p>・「現代社会における情報通信体系の整備は、広域分散型社会である北海道の地域格差是正のために必要不可欠」とのご意見については、ご認識のとおりです。</p> <p>また、「社会資本としての公共光ファイバー網の整備促進と共に民間光ファイバー網の整備促進を合わせた施策が必要」とのご意見については、光ファイバー網等の情報通信基盤の整備については、民間主導を原則とし、その具体的な整備目標については、政府全体の指標として、IT戦略本部で策定された「IT新改革戦略」において、「地理的な情報格差を解消するため、平成22年度までに光ファイバ等の整備を推進し、ブロードバンド・ゼロ地域を解消する」との目標が掲げられているところです。こうした目標の具体化については、現在、総務省が中心となって取り組んでおり、道内においても、政府目標の達成に向け、北海道総合通信局が関係者と協力しながら対応を進めています。</p>
	<p>・北海道は「農山漁村・中山間地域」が多く、少子高齢化による人口減少の地域が多く、地域住民の通学・通院・日生活における移動手段としての公共交通の確保が厳しい状況にあるため、地域住民が安心して住み続けるための「公共交通の確保」は重要である。</p>	<p>・「公共交通の確保」については、ご意見を踏まえ、追加記載します。</p> <p>・重点戦略4に「多様化する地域や交通利用者のニーズに対応した地域の実情に即した交通基盤施設の整備やその利活用」を、本重点目標に「市町村、公共交通事業者、地域住民が協働した地域活性化・再生を図る取組や新たな公共交通としてDMV（デュアル・モード・ビークル）やLRVを活用した取組を推進する。」を追加記載する。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標③ 「冬期交通の信頼性向上」</p>	<p>・地方においては、過疎化・少子高齢化が進み、空き地や空き家も増えてきており、高齢化による人力除雪の限界も見られる状況であることから、新たな雪処理体制（除排雪方法も含む）の構築が必要と考えます。</p>	<p>・「新たな雪処理体制（除排雪方法も含む）の構築」については、本重点目標において「安全で信頼性の高い道路交通を確保するため、効率的な除排雪の実施、雪崩防止施設や防雪林等の整備、堆雪幅の確保、凍結路面対策等を推進」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>「冬期交通の信頼性向上」⇒「地域交通・冬期交通の信頼性向上」</p> <p>・既存道路の安全性、安心な輸送を維持するため、オーバーレイ事業等の維持補修に向けた対策を推進する。</p> <p>・オーバーレイ事業の補助事業の確立を望む。</p>	<p>・「維持補修に向けた対策」については、重点戦略2重点目標②において「老朽化した公共施設及び公的賃貸住宅の適切な維持管理や改良整備等により、ライフサイクルコストの縮減及び施設の長寿命化を推進」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
<p>重点戦略5 「安全・安心な国土づくり」</p>		
<p>重点目標① 「頻発する自然災害に備える 防災対策の推進」</p>	<p>・北海道の太平洋沿岸一帯は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の防災対策推進地域に指定されており、500年間隔で発生するとされる大津波の被害が想定されている。</p> <p>そのような中、海岸線における地震・津波対策はもちろんのこと、更なる被害軽減を図る観点から、河川堤体の強化や上流部への避難通路の整備等、津波の河川遡上に対する防災対策が不可欠であり、重点事項へのそれら対策の明記が必要である。</p> <p>当地域の市街地を流れる新釧路川については、パークゴルフ場や球技場など、河川敷の公園整備が進み、多くの市民が利用する空間となっているが、いつ起こるか予測のつかない津波の河川遡上から市民の生命を守るためには、河川敷地から上流部への避難を可能とする避難通路の整備など、「新釧路川における津波の河川遡上対策」が重要となっている。</p>	<p>・「河川堤体の強化や上流部への避難通路の整備等、津波の河川遡上に対する防災対策」については、本重点目標において「緊急輸送道路の橋梁の耐震補強、・・・や河川構造物・・・など、地震・津波に備えた防災対策」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ代表事例に記載していきます。</p>
	<p>・十勝圏域において人口が集積する帯広圏の市街地付近は、全国有数の河川である十勝川に、札内川や音更川など多くの河川が合流する地点となっており、増水時には水が集中し洪水の危険性が高く、被害も甚大になると懸念されます。</p> <p>よって、十勝川流域における治水対策事業を代表事例として記載したうえで、河道の掘削や堤防の整備など治水対策の推進や、治水施設の適切な維持管理を着実にすすめるようお願いいたします。</p>	<p>【主要事業】 ■河川改修事業に「新釧路川（釧路市）」を記載する。</p> <p>・「治水対策」については、本重点目標において「治水対策、土砂災害対策、火山災害対策、海岸保全対策など根幹的な防災対策を推進」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p> <p>【主要事業】 ■河川改修事業に「十勝川（帯広市他）」を記載する。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標① 「頻発する自然災害に備える 防災対策の推進」</p>	<p>・当別ダム（補助多目的ダム）の建設促進関係</p> <p>当別ダムは、洪水調整、かんがい用水、水道用水（当別町・札幌市・小樽市・石狩市）の確保等を目的とした、多目的ダムとして平成4年度に新規建設が採択され、当初計画では平成18年度完成を予定していたところであるが、完成が平成24年と変更され、昨年度から本体工事に着手されているところである。</p> <p>当別川流域は農地として高度に利用され、かつ生活用水の水源として広く利用されていること、また、過去より度重なる洪水被害に対処すべく抜本的な治水対策、安定水源の確保を目的としたダムの早期完成を強く要望していることから、補助多目的ダムの建設促進について配慮した素案の調製をお願いしたい。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・津波や大雨災害等が発生した際に、国道等の主要幹線道路が寸断されることが予想されることから、「災害に強い道路網の整備による災害時の避難経路の確保」に関する目標を追加</p>	<p>・「災害に強い道路網の整備による災害時の避難経路の確保」については、本重点目標において「信頼性の高い道路ネットワークの構築」について記述しているところであります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・近年の異常気象により、局地的集中豪雨が多発により、大雨災害が発生していることから、これらの自然災害に備えるための防災対策が不可欠であり、それらの目標達成を図るための指標が必要</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ防災対策に関する指標を設定していきます。</p> <p>【指標】 ●事前通行規制区間の対策率</p>
	<p>・日高管内は、平成15年の大雨災害により甚大な被害を受けたところである。高規格幹線道路日高自動車道は、災害時における避難経路及び物流を確保するためには必要不可欠であることから、「高規格幹線道路日高自動車道の整備」を代表事例として記載</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ代表事例として記載していきます。</p> <p>【主要事業】 ■高規格幹線道路整備【日高自動車道（一般国道235号門別厚賀道路）（日高町）他】（重点戦略4重点目標①）</p>
	<p>・近年の異常気象により、局地的集中豪雨が多発により、大雨災害が発生しており、これらの自然災害に備えるための防災対策が不可欠であることから、これらの災害に対応するための治水対策等に関する目標及び指標が必要</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ治水対策に関する指標を設定していきます。</p> <p>【指標】 ●洪水による氾濫から守られる区域の割合 等</p>

項目	市町村提案	対応（案）
<p>重点目標① 「頻発する自然災害に備える 防災対策の推進」</p>	<p>・一級河川である沙流川流域は、水害に対する危険性が高く沙流川の治水対策が必要不可欠であるため、「沙流川の河川整備」を代表事例として記載</p>	<p>・「緊急の治水対策」については、本重点目標において「治水対策、土砂災害対策、火山災害対策、海岸保全対策など根幹的な防災対策を推進」について記述しているところであり、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ治水対策に関する指標を設定していきます。</p> <p>【主要事業】 ■河川改修に「沙流川（日高町）」を記載する。</p>
	<p>・ア 標津町には第1次避難所が8箇所、施設避難所が26箇所ある。特に話題となっているのが、冬期間に発生した場合の地震津波災害への対応である。避難施設を指定しているが、道路や駐車場、避難場の除雪は町内会や地域のボランティア支援に頼っているのが現状である。 イ 標津町は標高が低く、また海岸線が42キロメートルに渡って続いている。 北海道の海岸線は凍結や流水が漂着する海岸域があり、多くの市町村で話題となっている通年対応の潮位計の開発、整備が求められている。 ウ 津波災害に対する対策として、低地に所在する海岸線の集落に在住する住民の高地への避難道路の整備や避難ステージの設置が求められている。 などのことから、「積雪寒冷地の特性を考慮した防災対策の推進」に関する目標を追加</p>	<p>・ご意見を踏まえ、本重点目標に「積雪寒冷地域の特性を考慮した防災対策を推進」に関する内容を追加記載します。</p> <p>・「避難路の除雪・防雪・凍雪害防止対策の強化推進、冬期を想定した避難訓練実施等、積雪寒冷地域の特性を考慮した防災対策を推進」を追加記載する。</p>
	<p>・標津町には国の指定河川が流れている。 近年の地球温暖化に伴う気候変動により集中豪雨による洪水災害が大きく懸念されている。特に河川に集落が形成されている市町村の洪水対策として「緊急の治水対策」に関する目標を追加</p>	<p>・「緊急の治水対策」については、本重点目標において「治水対策、土砂災害対策、火山災害対策、海岸保全対策など根幹的な防災対策を推進」について記述しているところであり、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
<p>重点目標② 「ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進」</p>	<p>・石狩川水系千歳川は、河川勾配が非常に緩やかであり、他河川に類を見ない状態であることから、千歳川流域では、これまで2年に1回の頻度で洪水被害を受けている。 平成17年4月に「千歳川河川整備計画」が策定され、やっと、河川整備がとり進められるようになり、また、整備の柱の一つである遊水地については、流域4市2町毎に1箇所造成する計画であることから代表事例として千歳川の河川整備（堤防強化、遊水地、河道掘削、内水対策）の記載が必要と思われる。</p>	<p>・「河川整備」については、本重点目標において「治水対策、土砂災害対策、火山災害対策、海岸保全対策など根幹的な防災対策」について記述しているところであり、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ代表事例として記載していきます。</p> <p>【主要事業】 ■河川改修に「千歳川遊水地（恵庭市他）」を記載する。</p>
<p>重点目標③ 「道路交通事故等の無い社会を目指した交通安全対策の推進」</p>		

項目	市町村提案	対応（案）
その他		
その他	<p>・北海道全体の経済を牽引するためには道央を重点として考えることは理解できるが、日本の食料基地である農業水産などは地方にあり、観光についても交通の便利さやショッピング等での道央圏の都市観光も大きなものと認識しているが、北海道らしい観光地は地方にも多く点在している。さらに、現在地方は経済状況をはじめとして深刻な状況にあることを考慮すると投資効果を見放すわけには行かないが、計画期間においては地方に対して相当の対策を重点的に進めるとの方針を示すべき。</p>	<p>・「地方に対して相当の対策を重点的に進めるとの方針」については、Ⅲ「北海道地方における社会資本の重点事項」の各箇所記述しているところであり、また、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・広大な北海道においては、広域的な生活圏が形成されていますが、各圏域の特性や課題は圏域ごとに異なることから、圏域の活性化や地域格差の解消に配慮した社会資本整備のため、「地域づくりの方向」などをふまえながら、圏域ごとに、重点目標や主要事業等を検討する必要があると考えます。</p> <p>また、札幌・道央圏への人口や社会資本などの偏在を加速させることなく、北海道の均衡ある発展のため、各圏域の資源や特性を活かす社会資本の整備について、配慮をお願いします。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・計画の効果的な推進を図るため、課題や事業分野に応じて、国や北海道、市町村、団体など多様な主体による協働の仕組みや推進体制を構築する必要があると考えます。</p> <p>また、計画に示した目標の達成状況などについて、適切なフォローアップを行うとともに、道民・国民へのわかりやすい情報提供などが必要であると考えます。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・「北海道周辺離島における地域活性化方策に関する懇談会」（国交省北海道局）H20.12～H21.3 →「社会資本整備戦略プログラム」を参考。</p>	<p>・参考にします。</p>
	<p>・北海道は広域分散型社会であり、社会資本整備にあたってはB/Cを重要視するのではなく、少子高齢化を迎える中で地域住民の安全で安心な生活を確保し、都市と格差のない、将来的にも地域が成り立っていくような社会資本整備を推進していただきたい。</p>	<p>・いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>
	<p>・「東アジアとともに成長」の目的とそのイメージが不明</p>	<p>・成長する東アジアとは、北海道の産業においても関係があることから、「東アジアと共に成長していく産業群の育成」と記述しているところがあります。</p>
	<p>・「国際競争力の高い魅力ある観光地づくり」において、北海道は長崎県対馬の轍を踏まないように、また「北海道らしさ」の保持のためにも、看板の設置など観光設備整備においても厳格な規制は必要である。</p>	<p>・「看板の設置など観光設備整備においても厳格な規制」については、重点戦略1重点目標②において「美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくり」を、重点戦略3重点目標②において「美しいまちなみ景観の形成などにより観光資源の発掘を促進」について記述しているところがあります。いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>

項目	市町村提案	対応（案）
その他	<p>・本市は、漁業、酪農業及び水産加工業を基幹産業とし、都市部への食料供給機能を果たし、食料自給率向上の面から我が国の発展に貢献しているものと考えているが、社会経済構造の変化や少子高齢化の進展に伴い、後継者不足などの課題が生じており、今後とも本市が食料供給基地としての機能を果たしていくためには、魅力有る就業環境の創出に向けた生産基盤の整備や大都市圏へのアクセスが容易であることなどが不可欠と考えている。また、医療機能の低下が深刻な状況にある中、地域住民の安心安全な暮らしを守るためにも、冬期間も含めて高次医療圏への安全確実なアクセスの確保が必要である。さらに、本市が地域活性化として取り組む流水観光や交流拡大事業の推進のためには、都市部からの円滑かつ容易な移動手段の確保が望まれる。</p> <p>これらの現状を踏まえ、大都市圏から遠く離れた鉄路のない本市にとっては、産業振興、医療、観光振興、交流拡大などあらゆる側面において、高速交通ネットワークの構築が、まちの将来を大きく左右すると認識しており、また、道内の大部分の市町村が、本市と同様な産業形態や地域性にあることから、北海道の競争力の確保や持続的発展のために不可欠であるものとする。</p> <p>今後の社会基盤整備にあたっては、広域にわたり人口低密度地帯が広がるとともに積雪寒冷といった北海道の特殊性を十分に踏まえた対応策が図られることを期待する。</p> <p>・防災対策は、市町村単位や局所的に発生するものであるから、きめ細かな対応が求められる。より市町村からの意見聴取や連携強化をお願いします。</p>	<p>・「高速交通ネットワークの構築」及び「北海道の特殊性を十分に踏まえた対応策」については、重点戦略4において「広域的な生活圏を支える交通ネットワークの整備」や「冬期における道路交通の確保など」について記述しているところであり、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p> <p>・「市町村からの意見聴取や連携強化」については、重点戦略5重点目標②において「迅速かつ円滑な災害対応のため防災情報の共有化等の防災関係機関の連携強化を推進」について記述しているところであり、いただいたご意見については、その趣旨を踏まえ計画の推進に活かしていきます。</p>